

**建築工事で発生した廃石膏を土壤改良資材として農業に活用する
新たな資源循環の仕組みづくりに取り組み、
品質や安全性の検証を完了した米をお客さまに配布しました！**

東急電鉄株式会社
東急株式会社
東急建設株式会社
東急リニューアル株式会社
株式会社土と野菜
一般財団法人日本土壤協会

東急電鉄株式会社(以下、東急電鉄)、東急株式会社(以下、東急)、東急建設株式会社、東急リニューアル株式会社、株式会社土と野菜および一般財団法人日本土壤協会は、東急電鉄と東急が実施した田園都市線駒沢大学駅リニューアル工事などで発生した廃石膏(はいせっこう)を、土と野菜が連携する4戸の農家(米、小麦など)へ土壤改良資材として導入する取り組み(以下、本取り組み)を進め、2025年6月に小麦を、2025年10月に米の収穫を行い、品質や安全性の検証を完了し、問題ないことを確認しました。2026年1月24日には、収穫した米をお客さまへ配布するイベントを田園都市線用賀駅で開催しました。

なお本取り組みは、2024年3月に6者で締結した「持続可能な循環型社会の実現に向け、建築工事で発生する廃石膏の有効活用ならびに新たな資源循環の仕組みづくりに向けた包括連携協定(以下、本協定)」に基づき行っています。

廃石膏とは、建築工事で石膏ボードを加工する際に生じる端材のことです。発生した廃石膏は石膏ボードへ一定のリサイクルを行っています。リサイクル方法の拡大を目指し本協定では、廃石膏に含まれる硫酸カルシウムが農作物に必要な養分として活用が可能なことから、収集した廃石膏を粉砕して石膏粉とし、土壤改良資材として農業用土壌に散布することに取り組んでいます。廃石膏に含まれる硫酸カルシウムによって農作物の収穫量減少・品質の低下の原因となる硫黄欠乏を予防し、農家が抱える課題の解決と産業廃棄物の削減の仕組みづくりを目指しています。

収穫した米の配布イベントには約500名のお客さまが来場し、イベント後のアンケートに回答いただいた57名のうち約9割の方から「いつもよりおいしい」または「いつもと変わらないおいしさ」と回答いただき、取り組みに賛同する声もいただきました。

今後も本協定の社会実装に向けた取り組みを継続し、持続可能な循環型社会の実現を目指します。



▲収穫した米の配布イベントの様子

【別紙】

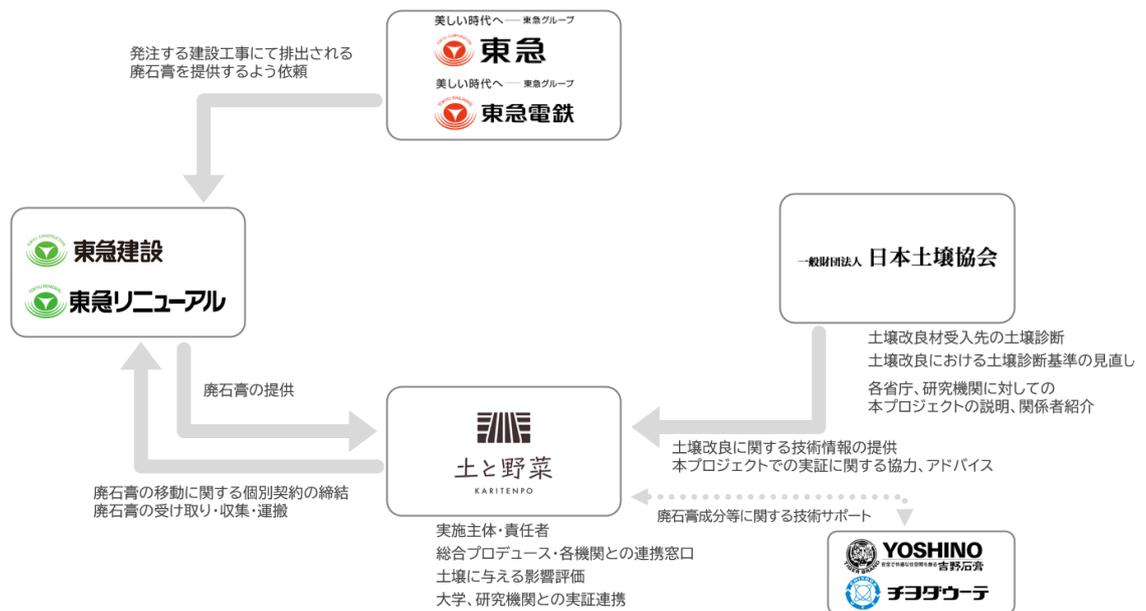
1. 廃石膏を活用した新たな資源循環推進に向けた包括連携協定の締結について

2024年3月29日発表：<https://www.tokyu.co.jp/company/news/detail/53631.html>

(1) 連携・協力事項

- ・廃石膏を活用した土壌改良資材の精製に関すること
- ・土壌評価基準の見直しに関すること
- ・廃石膏を活用した土壌改良資材を農家に展開する資源循環の仕組みづくりに関すること

(2) 各者の役割



“循環型社会の実現に向け、本スキームにおいて廃石膏の適切な取り扱いを含めた新たな資源循環の仕組みの構築と社会実現を目指します”

(3) 建築工事で排出する廃石膏の有効活用ならびに資源循環の仕組みづくり スキーム



2. 本取り組みの令和7年度リデュース、リユース・リサイクル推進協議会会長賞受賞について

2025年10月28日発表（東急建設）：<https://www.tokyu-cnst.co.jp/topics/2865.html>